

ingが可能であるのに加え、処理温度が170℃と従来法に比べ低温で熱による金属、HAに対する影響が少ない利点がある。

39. 変形性関節症 (OA) の疾患関連遺伝子の探索

田原正道 (千大院)

石灰化抑制能を持つ無機ピロリン酸の細胞内外の輸送に関与する蛋白をコードする *ANKH* 遺伝子の転写開始点を同定し、cDNA 全長を決定した。OA 症例40例を用い、プロモーター領域、エクソン領域の多型を検索し、3多型を同定した。それら多型についてOA群と非OA群間での相関解析をおこなったところ、5'非翻訳領域内の8塩基の挿入欠失多型においてOA群で同欠失アレルをホモでもつものの割合が有意に高かった。

40. 骨肉腫の長期生存者における結婚と生殖能について

米本 司, 舘崎慎一郎, 石井 猛
萩原洋子 (千葉県がん)

骨肉腫長期生存者45例の結婚と生殖能について検討した。男性患者の結婚率は20.8%で、女性患者の結婚率は76.2%であり、男性患者は女性患者より圧倒的に結婚率が低く、男性患者では治療が結婚に大きく影響していると考えられた。また、男性患者の生殖能率は80%、女性患者の生殖能率は75%で、16患者から合計18人の子供が生まれており、骨肉腫の治療に用いられた化学療法は患者の生殖能や子供の健康にほとんど影響していないと思われた。

41. 病巣搔爬後にリン酸Caペーストを充填した2例

木村健司, 山岡昭義, 須関 馨
山下桂志 (船橋中央)

症例1: 19歳男性。平成7年、右踵骨骨嚢腫。病巣搔爬し、搔爬後の巨大な骨欠損の充填に、自家骨とリン酸Caペースト (Biopex-R) を用いた。症例2: 35歳女性。第5中手骨内軟骨腫。病巣搔爬し、リン酸Caペーストを充填した。考察: 2000年に認可されたリン酸Caペーストは、まだ大規模な長期経過の報告は少ない。生体親和性、自家骨への置換など、我々も、注意深く観察していく予定である。

42. 低侵襲手技にて摘出し得た胸椎部髄膜腫の1例

岩崎潤一, 森永達夫, 南 徳彦
(市立柏)
望月真人 (沼津市立)

症例は77歳男性、胸椎部 (Th6-7) 髄膜腫に対し、METRx morodrscectomy systemを用いた腫瘍摘出を施行した。ドレーンは留置せず、術翌日より坐位とし、5日目より歩行リハビリを開始した。術後3日間の Visual Analogue Scale (VAS) はいずれも2であり、血清CRP値は全て陰性であった。

43. 頸椎に発生したsolitary plasmacytomaの1例

稲田邦匡, 須藤英文, 徳永 進
(安房医師会病院)
山崎正志 (千大)
武内利直
(千葉県がん・臨床病理部)

頸椎に発生したsolitary plasmacytomaの1例を報告した。単純X線では、C2,3の椎体の著しい骨破壊があり、病理組織検査にてplasmacytomaと診断された。

そこで、後頭骨からC7までの後方固定術を施行し、術後放射線治療を行った。すると脊椎固定術のみで腫瘍が縮小化した。

ただし、少量のM蛋白が認められる為、多発性骨髄腫への移行が予測され、慎重な経過観察が必要と考えられる。

44. 離島医療の新しい試み

松岡 明, 阿久津みわ (とちの木病院)
杉山好彦 (杉山医院)

とちの木病院は栃木県栃木市の民間病院である。約3年前に宮城県にある離島網地島に地方自治体と協力し、閉校となった小学校の校舎を再利用し19床の診療所を開設した。

離島医療には、医療スタッフの確保、医療水準の維持、島民の高齢過疎化という問題がある。これらの問題点に関して、本院との連携や介護施設の開設等により対処しており、離島医療の1つのモデルケースであると考えられる。